

2016年度

事業報告書

2016年4月 1日から
2017年3月31日まで



公益財団法人 日本科学技術振興財団

目 次

【事業活動】

1. 2016 年度の事業概況	1
2. グラフで見る 2016 年度の事業	3
3. 事業の状況	4
I. [公益目的事業 1] 科学技術館の運営事業	4
II. [公益目的事業 2] 他館の運営管理事業	7
III. [公益目的事業 3] 他館に対する活動支援事業	10
IV. [公益目的事業 4] 科学技術系人材の育成事業	11
V. [公益目的事業 5] 科学技術の普及啓発事業	12
VI. [公益目的事業 6] 科学技術振興に関する調査研究事業、	
VII. [公益目的事業 7] 科学技術の研究開発とその促進事業	13
VIII. [収益事業 1] 情報システムの設計開発と運用サービス事業	14
IX. [収益事業 2] 科学技術館施設の利用促進事業	15

【総合活動】

1. 当財団の組織	15
2. 代表理事及び業務執行理事の業務分担	16
3. 会議の開催	16
4. その他	17

【事業活動】

1. 2016年度の事業概況

I. [公益目的事業1] 科学技術館の運営事業

1. 入館者状況

入館者数は約53万7千人、対前年度比94.7%。8月に開催した夏休み特別展、団体入館者数が伸び悩み年間で3万人程度の減少となった。

2. 展示室の新設・整備

- (1) 「くすりの部屋クスリウム」(日本宝くじ協会助成金、日本製薬工業協会出展協力)12月22日オープン
- (2) 「ニュー・エレクトロホール<サイバー・リンク>(日本電気(株)日本電信電話(株)、(株)フジクラ、富士通(株)、パナソニック(株)、三菱電機(株) 出展協力)3月29日オープン。
- (3) 「エレクトロホール<オーロラ・サイエンス>(JKA補助金)2016年、2017年と2箇年にわたり更新

3. イベントの実施

- (1)ものづくり体験「たたら製鉄実験」11月13日開催(日本鉄鋼連盟との共済)
- (2)春休み特別展 「たからのうみと うみとたから展」3月18日～4月9日開催 ((公財)日本海事科学振興財団)
- (3)春休みイベント「見えない光ー紫外線のヒミツ展」3月18日～4月9日開催 (株)資生堂との共催)
- (4)夏休み特別展 「マジカル・ケミカル研究室」8月6日～8月28日開催 (JKA補助金)
- (5)社会貢献に関心の高い企業の協力を得て「日立サイエンスセミナー」「生物実験教室」「理研DAY」「日本IBM Tryscience実験教室」「夢化学-21」等、教室やイベントを開催。

4. サイエンス友の会

科学技術館で実施する工作教室や実験教室、企業などの施設見学会等を計374回開催。小学3年生以上の正会員と家族会員の延べ7,101名が参加。

II. [公益目的事業2] 他館の運営管理事業

1. 所沢航空発祥記念館の運営(埼玉県受託事業)

- (1)「時代を翔(かけ)る日本の傑作機たち」(春季)、「中島飛行機の傑作戦闘機たち 日本の傑作機シリーズ第二弾」(夏季)、「日本ー仏蘭西・百年飛行の旅」(秋季)に特別展を開催した。
- (2)「さかなクン ギョギョッとお魚教室」「ディノアライブ」「アンパンショー」を大型映像館上映作品に関連する催事を開催。

2. 青森県立三沢航空科学館(青森県受託事業)

夏休み特別企画展として「光のラビリンス～まほうの世界によこそ!」を開催。色とりどりに変化する映像により、子どもから大人まで見る人を楽しませる美しくも不思議な空間が生み出された特別展となった。

III. [公益目的事業3] 他館に対する活動支援事業

1. 鳥取市博物館常設展示装置保守点検業務(鳥取市文化財団受託事業)
2. 東京水道サービス(株)新漏水探知機PR映像制作業務(株)乃村工藝社受託事業)
3. 美浜町エネルギー環境教育体験施設・体験プログラム開発(株)トータルメディア開発研究所受託事業)
4. あいち航空ミュージアムコンテンツ等実施設計業務委託(愛知県振興部航空対策課受託事業)
5. 東京都人権プラザ映像制作((株)乃村工藝社受託事業)
6. プレアデス導入館に関する保守メンテナンス事業
7. 特殊投影用映像補正ソフトウェア販売(丸文(株))

IV. [公益目的事業4] 科学技術系人材の育成事業

1. 青少年のための科学の祭典2016

- (1)全国大会 7月30日・31日に科学技術館で開催。入場者数16,601人、出展数67
- (2)地方大会 北海道から沖縄まで75市町村で開催。

2. 国際科学オリンピック

- (1)日本生物学オリンピック2016の開催。
- (2)第27回国際生物学オリンピックへの日本代表派遣。

3. その他

- (1)教員のための理科実験指導育成講座の開催((公財)東京応化科学技術振興財団助成事業)
- (2)少年少女創造性育成事業の実施((公財)新技術開発財団受託事業)
- (3)子供科学人財育成事業の実施(沖縄県受託事業)
- (4)ボーイング社の支援によるCanSatプログラムを3年計画で推進中。

V. [公益目的事業5] 科学技術の普及啓発事業

1. 第57回科学技術映像祭（応募は、27機関から44作品が出品）
 - (1)内閣総理大臣賞受賞作品
「紅」（企画・制作：佐々木麻衣子／矢島 仁）
 - (2)表彰式、入選作品上映会を科学技術館サイエンスホールで開催。（4月21日、22日）
 - (3)入選作品は、全国の14科学館で上映会開催。観客者数は、47,674人。
2. エネルギー・放射線等に関する理解促進事業
 - (1)中学校理科新学習指導要領による「放射線」教育を実施する教師を支援するために放射線教育支援Webサイト「らでい」を運用し、教員研修や石巻市をはじめとする放射線出前授業を実施した。
 - (2)「青少年のための科学の祭典」全国大会及び地方大会に放射線実験ブースを出展。
 - (3)資源エネルギー庁の知識普及活動支援事業を全国17の科学館等で実施した。
 - (4)資源エネルギー庁の立地地域原子力教育セミナー事業を全国20道府県で実施した。
 - (5)資源エネルギー庁のエネルギー教育推進事業を実施した。エネルギー教育に意欲的に取り組もうとする小・中・高等学校90校を「エネルギー教育モデル校」として選定し、エネルギー教育を実践させるとともに、エネルギー教育に関する副教材の配布、地域会議の開催、かべ新聞コンクール等を実施した。

VI. [公益目的事業6] 科学技術振興に関する調査研究事業

VII. [公益目的事業7] 科学技術の研究開発とその促進事業

1. 調査研究事業は、科学館、博物館等の来館者調査や科学技術リテラシー調査など。
2. 広報活動は、「JSF Today」（季刊）および科学技術館メールマガジン（会員数10,908人）の発行、twitterによる情報発信（フォロワー数2,190人）を実施。

VIII. [収益事業1] 情報システムの設計開発と運用サービス事業

1. 情報システムの設計開発
 - (1)データベース技術やネットワーク技術を応用した情報システムの設計開発。
会計検査院、(学)産業能率大、(株)ニッセイコム、(株)イセト、(株)片平エンジニアリング向け業務。
 - (2)設計製造、製品管理関連ソフトウェアの設計開発。(株)電通国際情報サービス向け業務。
 - (3)国立研究開発法人科学技術振興機構。産学官の道しるべ開発。
2. 情報システムの運用サービス事業
 - (1)中外製薬(株)、オムロン(株)：LMS(Learning Management System)の運用業務。
 - (2)(学)産業能率大学、(職)日本技能教育開発センター：通信教育Web受講申込システムの運用業務。
 - (3)(一社)電子情報技術産業協会：統計システムのデータ登録・運用業務。
 - (4)(学)産業能率大学：会計決算システム運用業務。
 - (5)通信教育団体：成績報告サービス。

IX. [収益事業2] 科学技術館施設の利用促進事業

1階の展示・イベントホールでは、各種販売会、技術展、製品発表会、イベントの開催等で利用されている。地階のサイエンスホールでは、各種イベント、講演会、セミナー、研修会等の開催に向けて施設運営事業を推進している。
5階、6階の会議室の貸出し事業も推進している。
また、自主事業としてパソコン教室を開催している。

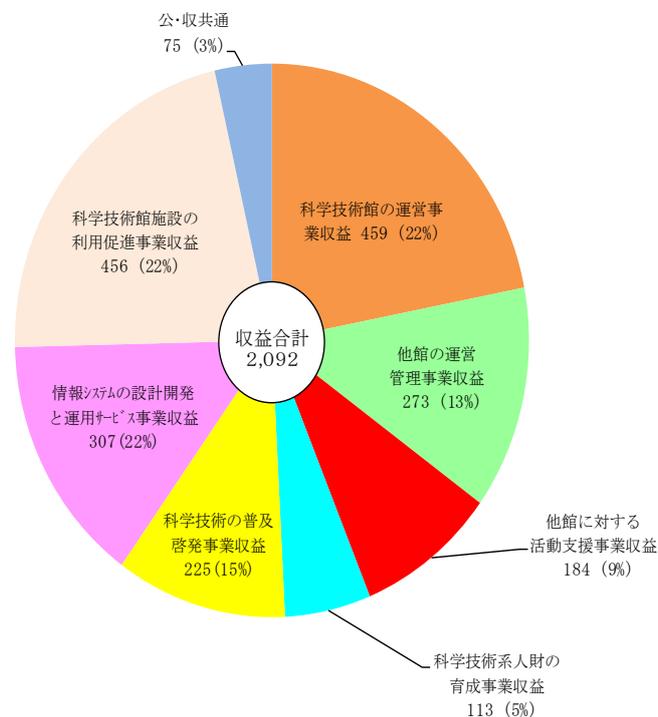
収益事業 1、2は、公益目的事業実施の基盤となる重要な事業である。

2. グラフで見る 2016 年度の事業

(1) 収益

2016年度収益 (単位：百万円)

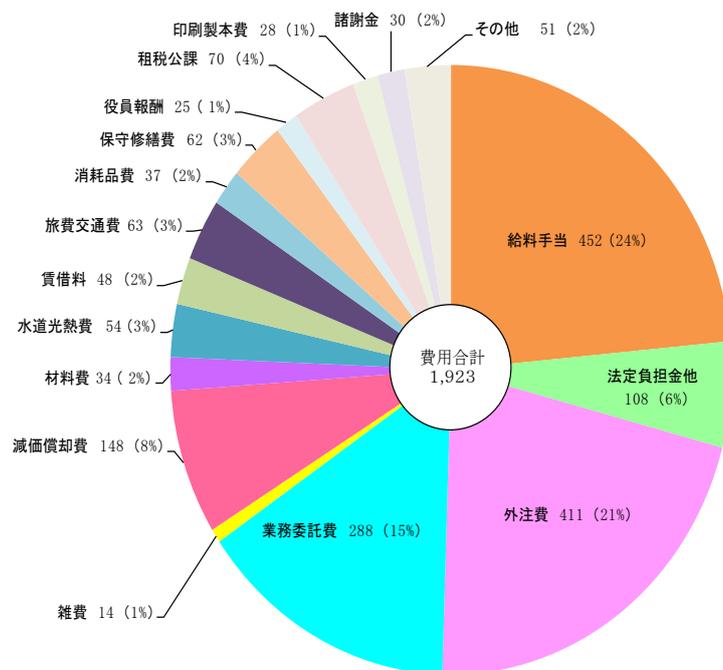
区分	科目	決算	予算
公1	科学技術館の運営事業収益	459	440
公2	他館の運営管理事業収益	273	254
公3	他館に対する活動支援事業収益	184	220
公4	科学技術系人材の育成事業収益	113	97
公5	科学技術の普及啓発事業収益	225	236
公6	科学技術の振興に関する調査研究事業収益	0	2
公7	科学技術の研究開発とその促進事業収益	0	0
収1	情報システムの設計開発と運用サービス事業収益	307	281
収2	科学技術館施設の利用促進事業収益	456	418
	公・収共通	75	62
	合計	2,092	2,010



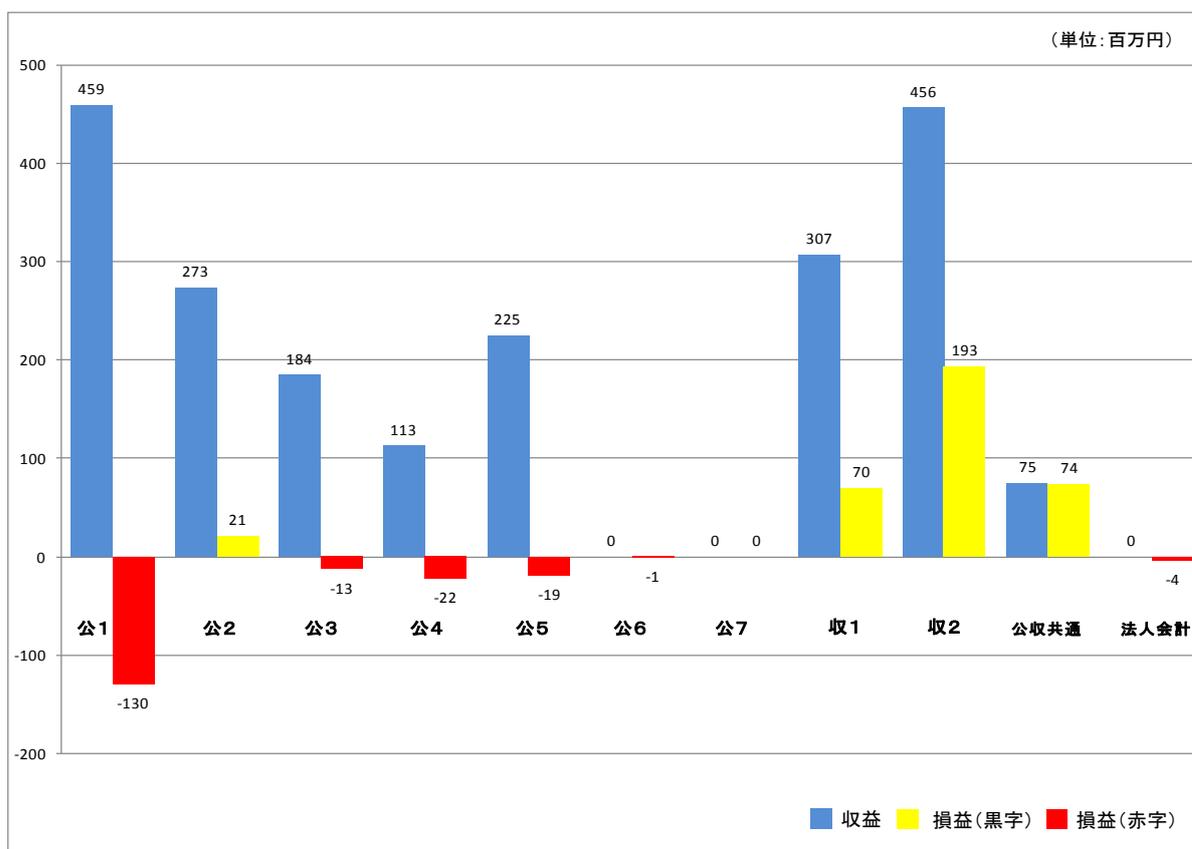
(2) 費用(事業費+管理費)

2016年度費用(事業費+管理費) (単位：百万円)

科目	決算	予算
①給料手当	452	476
②法定負担金他	108	145
③外注費	411	395
④業務委託費	288	298
⑤雑費	14	12
⑥減価償却費	148	139
⑦材料費	34	44
⑧水道光熱費	54	75
⑨賃借料	48	52
⑩旅費交通費	63	49
⑪消耗品費	37	40
⑫保守修繕費	62	74
⑬役員報酬	25	25
⑭租税公課	70	66
⑮印刷製本費	28	31
⑯諸謝金	30	26
⑰その他	51	63
合計	1,923	2,010



(3) 事業区分別の収益と損益



3. 事業の状況

I. [公益目的事業1] 科学技術館の運営事業

主として次代を担う青少年、そして家族連れを対象に、実際に見て触れて試すことで楽しみながら理解に近づく体験型の展示手法と多くの実験ショー・ワークショップを用い、常設展示・特別展ともに、好奇心・探究心・創造性を育みつつ科学技術・産業技術の振興と理解増進に繋がる情報・知識の普及啓発活動を展開した。また、開館以来の事業である1年制の会員組織「サイエンス友の会」による工作教室・実験教室等をはじめ、ステークホルダーと連携した各種教室等を開催した。

1. 科学技術館の運営

(1) 入館者状況

当年度の入館者数は約53万7千人となり、対前年度比94.7%と減少した。

4月、5月の入館者数は順調に伸びたものの、8月に実施した夏休み特別展が昨年度ほどの動員ができず、6月、10月～2月は団体の入館者数が伸び悩んだことで年間では3万人程度の減少となった。

<入館者状況比較>

	2016年度(人)	2015年度(人)	前年度比(%)
4月	41,304	38,007	108.7
5月	37,371	33,799	110.6
6月	28,506	36,309	78.5
7月	36,689	36,072	101.7
8月	59,885	76,915	77.9
9月	28,987	28,446	101.9
10月	35,783	37,664	95.0
11月	53,396	58,504	91.3
12月	53,280	56,754	93.9
1月	61,307	64,129	95.6
2月	60,184	61,318	98.2
3月	40,487	39,942	102.5
合計	537,619	567,859	94.7

(2) 展示室の整備

- ①日本宝くじ協会助成事業として、日本製薬工業協会の出展協力により新展示室「くすりの部屋—クスリウム」を整備し、12月22日にオープンした。
- ②JKA補助事業として、「エレクトロホール〈オーロラ・サイエンス〉」の更新を2016年度、2017年度2箇年にわたり進めている。日本電気株式会社、日本電信電話株式会社、株式会社フジクラ、富士通株式会社、パナソニック株式会社、三菱電機株式会社が出展に加わり、新展示室「ニュー・エレクトロホール〈サイバー・リンク〉」として、第一期分展示ゾーンを3月29日にオープンした。

(3) イベントの実施

- ①サイエンス友の会会員を対象に、日本鉄鋼連盟との共催で、ものづくり体験「たたら製鉄実験」を行い、11月13日に実施された製鉄イベントの様子は一般に公開した。
- ②社会貢献事業に関心の高い企業の協力を得て教室やイベント等を開催した。株式会社日立製作所による「日立サイエンスセミナー」、中外製薬株式会社による「生物実験教室」、日本アイ・ビー・エム株式会社「日本 IBM TryScience 実験教室」、日本カーモデラー協会及び一般社団法人日本自動車工業会「ワクエコ・カーモデラー教室」、国立研究開発法人理化学研究所「理研DAY」、「夢・化学-21」委員会「夢・化学-21」なぜなに?かがく実験教室、等。
- ③公益財団法人日本海事科学振興財団(船の科学館・海の学びミュージアムサポート)の「海の企展サポート」支援を得て、春休み特別展「たからのうみ と うみのたから展」を3月18日から4月9日まで開催した。
- ④株式会社資生堂と共催で、春休みイベントとして「見えない光—紫外線のヒミツ展」を3月18日から4月2日まで開催した。

⑤公益財団法人 JKA の補助を受け、2016 年夏休み特別展「マジカル・ケミカル研究室」を 8 月 6 日から 8 月 28 日まで 2 階イベントホールにて開催した。会期中の特別イベントとして、2001 年ノーベル化学賞受賞者である野依良治館長によるスペシャルワークショップを 8 月 22 日に開催した。

(4) サイエンス友の会

電子工作や木工工作教室、化学や生物をテーマとする実験教室、パソコンの使い方を学ぶパソコン教室、北の丸公園など屋外での自然観察教室、企業の協力による施設見学会、2020 年度より小学校教育課程に導入されることを睨んだプログラミング教室など、各種プログラムを 1 年間にわたって計 374 回実施し、小学 3 年生以上の正会員と家族会員の延べ 7, 101 人が参加した。

(5) ボーイングSTEMイベントとCanSatプロジェクトの開催

ボーイング社の助成を受けて、科学技術を総合的に体験・学習する STEM 教育(科学<Science>, 技術<Technology>, 工学<Engineering> & 数学<Mathematics>)の日本での展開に取り組んでいる。そのひとつとして、シアトル航空博物館のサイエンスショー「フライング・ゴズモショー」とワークショップをおもなプログラムとして、セントレア中部国際空港(9 月 18 日)、半田市(9 月 19 日)、半田市立さくら小学校(9 月 20 日)、科学技術館(9 月 22 日)、福島市立三河台小学校(9 月 23 日)、福島県ハイテクプラザ(9 月 24 日)及び東北大学(9 月 25 日)と杉並区和泉学園(9 月 28 日)の 8 会場にて開催した。また、同じくボーイング社助成により、科学技術館開発のオリジナル STEM 教育プログラムとして、中高生を受講対象とした“空き缶衛星”の製作に取り組む CanSat プロジェクトを実施している。本講座の最終目標となる国際大会“ARLISS2017”への参加を進めるため、2016 年 9 月に“ARLISS2016”への実地調査及び予行参加を行い、科学技術館スタッフチームは Best Mission Award を受賞した。それらの成果を反映してソフトウェア・ハードウェア開発講座を 10 回にわたって開催し、延べ 88 名の中高生が受講し、2017 年 9 月の大会参加に向けて準備を進めている。

(6) 巡回展の貸出

「ラビレット展」、「地球環境展」、「マグネット展」、「スポーツを科学する」、「感覚・体感フィールド」、「科学捜査展」、「究める！マグネット展」、「科学捜査展 #SEASON2」等全国 15 か所の科学館を始めとする諸施設に貸し出し、各館のイベントとして実施した。

(7) 実験演示

8 つの展示室に設けられた実験・演示コーナーにおいて、休館日を除く毎日、ワークショップ・実験ショー等を実施した。

(8) 実験・工作プログラム開発

館外でのイベント向けプログラムとして「プラスチックをリサイクルしてペンダントをつくろう！」「空気と静電気の測定」「みぢかなものでふしぎ☆実験！」を、ステークホルダーと連携もしくは、館オリジナルとして開発し、JASIS2016 (分析・科学機器専門展示会：幕張メッセ)などで実施した。これらのイベントには延べ約 170 名の参加があった。

また、館内演示プログラムとして実験スタジアムR新プログラム「レモンのチカラ」をポッカサッポロフード&ビバレッジと連携して開発した。

(9) その他

①「職場訪問」「体験学習」等

全国からの中学校4校と高等学校1校の館職員に対するインタビュー等に対応した。また、地元
の中等教育学校1校の職場体験を受け入れた。

②インターンシップの受け入れ

8月に、大学生2人を受け入れ、博物館運営の実務研修を実施した。

7月～9月に国際インターンシップとして仏国ESSEC(エセック経済商科大学大学院大学)より学生
1名を受け入れ、博物館運営を中心に外国からの来館者に向けた案内資料の作成等にあたった。

II. [公益目的事業2] 他館の運営管理事業

科学技術館の運営の経験を基に、科学館、博物館等の教育文化施設の運営を行うことにより、科学知
識の普及啓発に貢献している。

1. 所沢航空発祥記念館の運営 (埼玉県受託事業)

常設展示の運用、展示情報のデジタル化、特別展・公開講座・工作教室等のイベント開催などの運営
や航空遺産の収集・保存・管理などの学芸活動を行った。

(1) 展示館の運営

特別展を春夏秋冬に開催し、年間を通じて工作教室、公開講座、YS-11や格納庫の一般公開等
の各種イベントを実施し、入館者の増加と顧客満足度の向上に努めた。

①特別展

1) 春季 「時代を翔(かけ)る日本の傑作機たち」

会期: 2015年11月21日から6月26日 36,120人

※上記特別展の人数は2016年度分のみ

2) 夏季 「中島飛行機の傑作戦闘機たち 日本の傑作機シリーズ第二弾」

会期: 7月20日から9月4日 24,554人

3) 秋季 「日本-仏蘭西・百年飛行の旅」

会期: 12月3日から2017年4月9日 37,621人

※上記の特別展の人数は2016年度分のみである。

4) ミニ企画展 「日本初の人力飛行機リネット～初飛行から50周年を迎えて」

会期: 2月6日から4月17日

②工作教室 : 28回、1,092人

③YS-11一般公開 : 5回、9,231人

④格納庫一般公開 : 6回、11,090人

⑤公開講座 : 5回、346人

⑥「青少年のための科学の祭典」所沢大会: 1回、1,000人

(2) 大型映像館の運営

魅力ある作品を選定、映像フェスティバルの開催を通じて、映像作品のバリエーションの充実を図ることで入館者増と顧客満足度の向上を図った。

①春季通常作品上映	: 4月1日から6月30日、	6,566人
GWフェスティバル作品上映	: 4月23日から5月8日、	3,232人
②夏季通常作品上映	: 7月1日から9月30日、	16,507人
夏休みフェスティバル作品上映	: 8月1日から8月28日、	4,806人
③秋季通常作品上映	: 10月1日から12月28日、	6,936人
④冬季通常作品上映	: 1月2日から3月31日、	7,644人
冬季フェスティバル作品上映	: 3月25日から3月31日、	1,938人
⑤第56回科学技術映像祭入選作品上映会	: 9月17日から9月25日、	55人

(3) 大型映像館関連催事の開催

大型映像館上映作品に関連する催事を以下のように実施した。

①「さかなクン ギョギョッとお魚教室」	: 6月4日	394人
②「ディノアライブ」	: 7月31日	1,884人
③「アンパンショー」	: 3月31日	1,610人

(4) 連携活動

埼玉県博物館連絡協議会、日本ジャイアントスクリーン協会等の団体に加入し、各博物館及び大型映画関係者との連携を深め、情報交換を行った。

(5) 利便性の向上

各種割引チケット・各種パスポート等を発行し、利用者の利便性を高めることにより入館者増に努めた。また、春休み・ゴールデンウィーク・夏休みなどの繁忙期における営業日・営業時間の柔軟で弾力的な運営を図ることにより、利用者ニーズに応えた。

(6) 広報活動

アンケート結果に基づく来館動機および費用対効果の高い広報活動を行い入館者数の増加を図った。公園内の広報の強化、画像を多用した訴求力の高いホームページへのリニューアル、facebook や instagram を活用した情報拡散、大型映像館での本編上映前の宣伝として、特別展・イベントや次回作のトレーラーの上映等、視認率の向上による広報の強化を図った。

(7) 団体誘致活動

埼玉県及び都内近郊の幼稚園、小・中学校等の団体にパンフレット、リーフレットを配布した。

(8) 普及啓発活動

- ①学習プログラム(学習ノート、展示ガイドツアー)を新たな利用者、リピータ向けに実施した。
- ②ワークショップ・実験ショーを開催し、入館者増に結び付く活動を展開した。
- ③友の会「キッズ・チャレンジ倶楽部」活動を、小学3年～6年生対象に今年度も引き続き実施し、「科学する心」を育て、「創る喜び」を体験させるため、航空科学を中心に工作教室・実験教室・自然観察教室・航空関連施設見学会等の活動を年間を通じて実施した。

開催教室数：34回、参加者数：863人

(9) ボランティア活動の充実

入館者サービスの一層の向上を目的として、ボランティア活動の充実を図った。

(10) 他施設等の催事への協力

- ①川崎重工業株式会社が進めている陸軍三式戦闘機「飛燕」の修復に協力し所蔵する「飛燕」の残骸を貸与した。
- ②苫小牧市美術博物館で7月9日から9月6日に開催した特別展「Art and Air ～空と飛行機をめぐる、芸術と科学の物語」に所蔵する資料を貸与した。
- ③六本木ヒルズ展望台 東京シティビューで7月7日から9月11日に開催した展覧会「ジブリの大博覧会～ナウシカから最新作「レッドタートル」まで～」において所蔵機体写真の提供、グラフィックパネルの内容確認で協力した。
- ④八幡浜市民ギャラリーで10月15日から11月20日に開催した特別展「八幡浜郷土企画展 二宮忠八生誕150年記念 大空への挑戦」に所蔵資料を貸与した。

(11) その他の活動

- ①記念館のサービス施設として、スーベニアショップ及びカフェレストランの運営を行った。
- ②財団が購入した、テレビ朝日系列の番組「妻と飛んだ特攻兵」の撮影で使用された九七式戦闘機レプリカを埼玉県に寄附した。
- ③展示館内のヘリコプター・V-44のコックピットを公開した。
- ④展示館内の音声ガイドシステム(日本語、英語、仏語)の運用を開始した。
- ⑤7月2日に開館以来の累計入館者が600万人に達し記念式典を実施した。

(12) 入館者状況

2016年度の入館者数、前年度との比較は以下の通り。

入館者数	団体件数	団体人(人)	個人(人)	総入館者数(人)
2016年度	393	20,963	186,143	207,106
2015年度	361	19,869	164,900	184,769
前年度比増減	+32	+1,094	+21,243	+22,337

2. 青森県立三沢航空科学館 (青森県受託事業)

(1) 展示物の保守・点検・修理

展示物の異常や故障などを未然に防ぎ、正常な稼動と安全運転を確保するため、展示物の保守点検を年4回実施した。

(2) イベントの開催等

夏休み期間中、色とりどりに変化する映像により、子どもから大人まで見る人を楽しませる美しくも不思議な空間が生まれる特別企画展「光のラビリンス～まほうの世界にようこそ!」を開催した。

Ⅲ. [公益目的事業3] 他館に対する活動支援事業

科学技術館の運営の経験を基に、科学館、博物館等の教育文化施設に対して、それら施設の新規設置や更新、あるいは新たな「活動づくり」にあたってのコンセプト作りなどの支援を総合的に行っている。

1. 鳥取市博物館常設展示装置保守点検業務 ((公財)鳥取市文化財団受託事業)

鳥取市文化財団より鳥取市歴史博物館常設展示装置保守点検業務を受託し、常設展示装置の保守点検を年4回実施した。

2. 東京都水の科学館PCソフト入替業務 ((株)乃村工藝社受託事業)

東京都水の科学館が展示装置のPCハードを更新したことに伴い、財団で制作した展示コンテンツ及びプログラムをそれらに入れ替える作業を行った。

3. 美浜町エネルギー環境教育体験施設・体験プログラム開発その2

((株)トータルメディア開発研究所受託事業)

2015年度からの継続業務である美浜町エネルギー環境教育体験施設の、体験プログラムの制作を行った。

4. あいち航空ミュージアム コンテンツ等実施設計業務委託

(愛知県振興部航空対策課受託事業)

県営名古屋空港に隣接して計画中的である、あいち航空ミュージアムの展示コンテンツの実施設計を行った。

5. 東京都人権プラザ映像制作 ((株)乃村工藝社受託事業)

東京都人権プラザの移転に伴う展示リニューアルにおける映像制作を行った。

6. プレアデス導入館に関する保守メンテナンス事業

以下の施設における保守メンテナンス事業を完了した。

- (1) 日立シビックセンター「天球劇場」保守点検業務 ((公財)日立文化情報財団の委託事業)
- (2) 山梨県立科学館プラネタリウム保守点検業務 ((公財)山梨県青少年協会の委託事業)
- (3) プラネタリウムシステムソフトウェア保守 (川崎市および平塚市の委託事業)
- (4) 岡三証券神楽洞夢保守点検業務 ((株)岡三証券グループの委託事業)
- (5) サイエンスヒルズこまつ3Dスタジオ保守点検業務 (小松市の委託事業)

7. 特殊投影用映像補正ソフトウェア販売 (丸文(株))

- (1) 自動車メーカー向けのソフトウェア販売を行った。来年度は実機シミュレーションシステムへのインストール調整作業が予定されています。

(2) 来年度に向け、丸文株式会社と共に上記と別の自動車メーカーへの提案を行っている。

IV. [公益目的事業 4] 科学技術系人材の育成事業

科学技術体験イベント、国際科学オリンピックなど、科学技術への興味関心を引き起こすレベルから専門家をめざすレベルまで、広範な活動を通して科学技術系人材の育成事業を推進している。

1. 青少年のための科学の祭典 2016

青少年のための科学の祭典は、当財団の提唱により 1992 年に開始され、草の根的な理科実験のイベントとして、20 年の歴史を数え、全国各地で展開している。当年度は、中外製薬株式会社などの支援を得て、科学技術館における全国大会をはじめ、75 市町村で、地方大会が開催された。参加者数は 295,210 人に及ぶ。

(1) 青少年のための科学の祭典 全国大会 (科学技術館)

会期 7 月 30 日・31 日、入場者数 16,601 人、出展数 67 (個人 29、団体 27、学生科学賞 7、放射線教育事例 4)

なお、2017 年度においては、国立青少年教育振興機構が実施する「こどもゆめ基金」からの助成が決定している。

(2) 青少年のための科学の祭典 地方大会

自主大会として北海道から沖縄まで、75 市町村で開催された。

2. 国際科学オリンピック

国際科学オリンピックは、大学入学以前の生徒を対象にして、第 2 次大戦後、東欧でスタートした。現在では、高校生にとって、科学ではもっともチャレンジングな目標となり、世界各国において、国際科学オリンピックをめざした活動が展開されている。当財団では、生物学オリンピック業務を行っている。

(1) 生物学オリンピック業務

① 日本生物学オリンピック 2016 の開催

1) 予選 : 7 月 17 日に全国 102 会場で実施、3,469 人が参加。本選に参加する 80 人を決定。

2) 本選 : 8 月 19 日から 22 日、三泊四日の合宿形式で、筑波大学において開催、80 人が参加。成績優秀者に、金賞 10 人、銀賞 10 人、銅賞 20 人の表彰。

この中から 2017 年 7 月にコヴェントリーで開催される第 28 回国際生物学オリンピックイギリス大会に出場する日本代表候補者として 16 人を選抜、12 月に冬期特別セミナーを開催、3 月に代表選抜試験を実施後、日本代表 4 人を決定した。

② 第 27 回国際生物学オリンピック (IBO2016) への日本代表団派遣

今大会は、7 月 17 日から 24 日、ベトナムで開催され、日本代表 4 人および引率者から成る代表団を派遣。世界 68 カ国・地域から 263 名の生徒が参加。日本代表は、金メダル 1 人、銀メダル 3

人の好成績であった。

3. 教員のための理科実験指導育成講座開催((公財)東京応化科学技術振興財団助成事業)

学校における教員の理科実験スキル向上を目的として、ベテラン教師による実践的な理科実験の極意を指導し、授業や社会教育活動に役立つ講習会を科学技術館「実験工房」で物理・化学・生物・地学の分野別に各2回開催した。(参加者:延べ111人)

なお、2017年度についても、助成を受けることが決定している。

4. 少年少女創造性育成事業 ((公財)新技術開発財団受託事業)

第47回市村アイデア賞受賞者を対象とした表彰式、入選作品の展示を11月に科学技術館で行い、小中学生を対象とした、複写機を題材としてその原理と分解を行うワークショップを2回、12月に香川県高松市生涯学習センターまなびCANにて、2017年3月に科学技術館にて開催した。

5. 子供科学人材育成事業 (沖縄県受託事業)

沖縄県内の地域で科学コミュニケーションの裾野を広げるため、児童館や学童施設でのイベント実施や指導員を対象にした講演会・指導方法の研修会を約50回実施し、約2,000人が参加。その際に使用される実験・工作プログラムを4個開発した。またイベント・研修会について、下記の通り大規模なものについては直接出張実施した。

V. [公益目的事業5] 科学技術の普及啓発事業

科学技術映像祭、サイエンスフィルムカフェ、各種工作機器類・測定装置の整備、エネルギー・放射線等理解増進事業等、広範囲な科学技術の普及啓発事業を実施した。

1. 科学技術映像祭

(1) 第57回科学技術映像祭

①「自然・暮らし部門」「研究開発・教育部門」「科学技術教養部門」の3部門に、27機関から44作品が出品され、内閣総理大臣賞に「紅」(企画・制作:佐々木麻衣子/矢島 仁)、文部科学大臣賞3作品、部門優秀賞6作品及び特別奨励賞1作品の表彰を決定した。

②各賞表彰式(4月22日)と入選作品上映会(4月21日・22日)を科学技術館サイエンスホールにおいて開催した。これらの入選作品は、全国の14科学館で上映会を行った。

観客者数は、約47,674人。

(2) 第58回科学技術映像祭

「自然・暮らし部門」「研究開発部門」「科学技術教育・教養部門」の3部門に、25機関から43作品が出品され、内閣総理大臣賞に「日本のチカラ#60 つかまれ!のぼれ!~カエルと少女とシュロの糸~」(企画:公益財団法人民間放送教育協会/製作:山口放送株式会社)、文部科学大臣賞3作品、

部門優秀賞 6 作品、特別奨励賞 1 作品の表彰を決定した。

2. エネルギー・放射線等に関する理解促進事業

- (1) 中学校理科新学習指導要領による「放射線」教育を実施する教師を支援するために各種情報を提供する放射線教育支援 Web サイト「らでい」を運用するとともに、教員研修や石巻市をはじめとする放射線出前授業を実施した。
- (2) 「青少年のための科学の祭典」全国大会及び地方大会にエネルギー・放射線実験ブースを出展した。
- (3) 資源エネルギー庁の知識普及活動支援事業を全国 17 の科学館等で実施した。
- (4) 資源エネルギー庁の立地地域原子力教育セミナー事業を全国 20 道府県で実施した。
- (5) 資源エネルギー庁のエネルギー教育推進事業を実施した。エネルギー教育に意欲的に取り組もうとする小学校・中学校・高等学校 90 校を「エネルギー教育モデル校」として選定し、エネルギー教育を実践させるとともに、エネルギー教育に関する副教材の配布、地域会議の開催、かべ新聞コンクール等を実施した。

VI. [公益目的事業 6] 科学技術振興に関する調査研究事業、

VII. [公益目的事業 7] 科学技術の研究開発とその促進事業

科学館、博物館等の来館者調査など、事業評価の実施及び事業の企画立案等に向けて調査研究を行った。広報活動としては、広報誌「JSF Today」、科学技術館メールマガジン等を発行した。

1. 調査研究

(1) 「青少年のための科学の祭典・全国大会」来場者、出展者アンケート調査の実施

調査日：7月30日、31日

調査件数：子ども 871 件、大人 523 件、出展者 72 件、補助スタッフ 25 件

2. 広報活動

(2) 「JSF Today」の発行

No.140 「科学技術館を使ってみよう」

(2016 年 4 月発行)、

No.141 「科学の“森”を発見しよう！～科学技術館『FOREST』20 周年記念特集～」

(2016 年 7 月発行)、

No.142 「よくみると、魔法!? よく考えると、化学!～特別展『マジカル・ケミカル研究室』の挑

(2016 年 10 月発行)

No.143 『くすりの部屋ークスリウム』オープン!」

(2017 年 1 月発行) 発行部数 各 1,000 部

(3) メールマガジンの発行

574号(4月6日)から623号(3月29日) 配信数10,908通(3月29日現在)

(4) twitterによる情報発信

フォロワー数2,190人(3月27日現在)

Ⅷ. [収益事業1] 情報システムの設計開発と運用サービス事業

データベース技術、ネットワーク技術、解析・シミュレーション技術、インターネット技術などを基に、官公庁及び関連機関をはじめとして、民間企業や通信教育団体等から、情報システムの設計開発業務や運用サービス業務を受託して実施した。この事業は、当財団の収益事業として財政基盤を支えることをめざしている。実施した主な業務は次のとおりである。

1. 情報システムの設計開発

(1) データベース技術やネットワーク技術を応用した情報システムの設計開発

①会計検査院

調査表管理システム運用保守業務、総合検索システム運用保守業務

②学校法人産業能率大学

マイナンバー対応改修、SISWEBシステムサービスの環境構築、学生向けWebサイト開発

③株式会社ニッセイコム

日本芸術文化振興会向けシステム開発・保守

④株式会社イセトー

不動産会社向けシステム改修、モニタリングレポート作成ツール処理速度改善業務、損保向けレポート閲覧システム

⑤株式会社片平エンジニアリング

路面プロファイルデータ解析システム開発

(2) 設計製造、製品管理関連ソフトウェアの設計開発

①株式会社電通国際情報サービス

PLM技術支援業務

(3) その他

①国立研究開発法人科学技術振興機構

産学官の道しるべ開発

2. 情報システムの運用サービス

(1) 中外製薬株式会社、オムロン株式会社

LMS(Learning Management System)の運用業務

(2) 学校法人産業能率大学、職業訓練法人日本技能教育開発センター

通信教育 Web 受講申込システムの運用業務

(3) 一般社団法人電子情報技術産業協会

統計システムのデータ登録・運用業務

(4) 学校法人産業能率大学

会計決算システム運用業務

(5) 通信教育団体

成績報告支援サービス

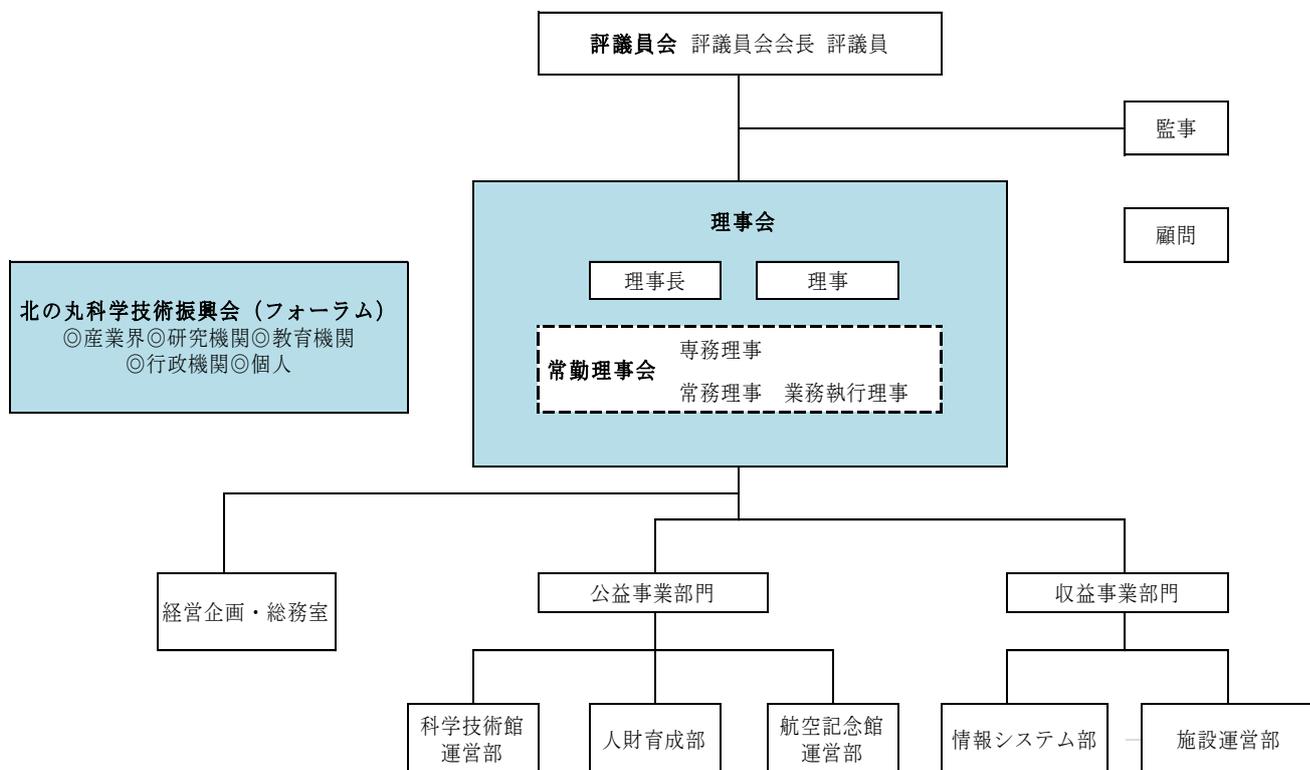
Ⅸ. [収益事業 2] 科学技術館施設の利用促進事業

当財団では、科学技術館の施設の一部を貸し出している。1 階の展示・イベントホールは、各種の販売会、技術展、製品発表会、イベントなどに利用していただいている。地階のサイエンスホールでは、土日にアニメ等の各種イベント、平日に講演会、セミナー、研修会等が行われている。また、5 階、6 階の会議室も貸し出している。この事業は、収益事業として経営しており、公益目的事業の継続実施の要となる重要な事業である。

今年度は、昨年度に引き続き各設備を利用していただく顧客に対しニーズを把握し、満足度を向上させる取り組みを行うことにより、継続的需要、更には新規需要に結び付けるように活動した。

【総合活動】

1. 当財団の組織 (2017 年 3 月 31 日現在)



2. 代表理事及び業務執行理事の業務分担 (2017年3月31日現在)

氏名	業務執行理事	役職	業務分担
榊原 定征	代表理事	理事長	法人代表
藤川 淳一	代表理事	専務理事	法人代表
紙野 憲三	業務執行理事	常務理事	航空記念館運営部担当 (所沢航空発祥記念館館長)(兼)、 科学技術館リニューアル担当(兼)、 各プロジェクト担当
植木 勉	業務執行理事	常務理事	科学技術館運営部担当(兼)、 人財育成部部長
吉田 忍	業務執行理事	常務理事	財団業務全般
新元 一弘	業務執行理事	理事	経営企画・総務室担当(兼)、 情報システム部担当(兼)、 施設運営部部長
岩科 季治	業務執行理事	理事	建設工事の請負に係る業務担当

3. 会議の開催

(1) 定時評議員会及び臨時評議員会の開催

①第6回定時評議員会 2016年6月27日

議案1. 2015年度の決算書類の承認の件

議案2. 評議員選任の件

議案3. 理事選任の件

議案4. 監事選任の件

議案5. 監事に対する報酬支払承認の件

②第7回臨時評議員会 2017年3月17日

※報告のみ

○上記の評議員会に付議された議案は、いずれも承認可決されました。

(2) 通常理事会、臨時理事会及び書面理事会の開催

①第11回通常理事会 2016年6月10日

- 議案 1. 2015 年度の事業報告及び決算書類の承認の件
- 議案 2. 定時評議員会の招集の件
- 議案 3. 理事会提案として評議員会に提案する評議員候補者の決定の件
- 議案 4. 理事会提案として評議員会に提案する理事候補者の決定の件
- 議案 5. 理事会提案として評議員会に提案する監事候補者の決定の件
- 議案 6. 2016 年度補助・助成事業実施に関する件

②第 6 回臨時理事会 2016 年 6 月 27 日

- 議案 1. 業務執行理事の選定の件
- 議案 2. 常務理事選定の件
- 議案 3. 業務執行理事の業務分担決定の件
- 議案 4. 理事の報酬額の決定の件
- 議案 5. 株式会社千代田ビデオ株式の取得及び

当該会社の株主総会における議決権行使について理事会の承認を求める件

③第 9 回書面理事会 2016 年 10 月 25 日

- 議案 特定資産・科学技術館環境改善積立資産の積立期間変更および目的外取崩しについて

④第 10 回書面理事会 2017 年 2 月 1 日

- 議案 臨時評議員会の招集について

⑤第 12 回通常理事会 2017 年 3 月 17 日

- 議案 1. 2017 年度事業計画及び予算書等の承認の件
- 議案 2. 特定費用準備資金等の保有に係る承認の件

○上記の理事会(書面理事会を含む)に付議された議案は、いずれも承認可決されました。

(3) 顧問会議の開催

開催なし

(4) 常勤理事会の開催

定款第 41 条第 2 項及び常勤理事会運営規則に基づいて、毎月 2 回(原則)、常勤の理事 6 名による常勤理事会を開催して、理事会決定による事業計画に従い、重要事項の審議、決定を行い、また各事業の報告により情報の共有を図っている。会議の資料及び結果については、電子メールにより、理事及び監事の全員に送付している。

4. その他

- (1) 経営課題の推進
- (2) 機構改革
- (3) 事業予算および要員予算編成方針策定
- (4) 要員中期計画策定

- (5) 四半期毎の業績検討会の実施
- (6) 事業損益改善の推進
- (7) 緊急老朽化対策の実施と科学技術館老朽化対策5カ年計画の策定

－ 以上 －